



目指す子供像 うんとかがえる子 なかよくする子 つよからだの子 きれいなこころの子

みどりの里

宇奈月小学校 学校だより

第12号

令和3年3月16日

点をつくる役割

校長 内生 蔵 保 人



3月5日から咲き始めたサクラ

駐車場にある早咲きの桜が花を咲かせ、みどりの里にも春が来たことを教えてくれています。

6年生にとっては小学校生活最後の週、そして1年生から5年生にとっては、それぞれの学年の学習や生活を振り返る大詰めの一週間となりました。

間もなく学び舎を巣立つ6年生のみなさんは今、どんな気持ちでしょうか。また、いよいよ進級する時期となった1年生から5年生までのみなさんもどんな気持ちでしょうか。

昨年度末から今年度にかけて、そしておそらく今後も、しばらくは感染症対策が学校や家庭生活の基盤となることと思います。学校では、検温確認、マスクの着用、手指消毒、換気、前向き黙食など、密をつくらず距離を空けて暮らす「新しい学校の生活様式」は突然やってきました。

顔を付き合わせて大声で笑ったり、じゃれ合ってくっつき合い、仕舞いには小さなけんかになったりすることは、例年に比べると少なくなりました。

上級生から楽しい話を聞いたり、放送の話で笑ったりしながら食べていたランチルームでの給食は、黙ってしゃべらず、となりの友達と距離を空け、放送委員会のなぞなぞにも、手を挙げたり、小さな声で答えたりするようになりました。プールからの歓声も他校の人と競い合った連合体育大会も今年度はできませんでした。

先週の3月11日に10年を迎えた東日本大震災も前触れもなく突然やってきました。病気や事故、災害によって当たり前の日常生活は突然なくなったり、変わったりしてしまうのです。

だからと言って、あきらめるわけにはいきません。可能な限り、子供たちの一瞬一瞬を豊かなものに、何をどうしたら「プールからの歓声」や「小競り合いと仲直り」を取り返すことができるのか、未来を担う子供たちのために準備し実行していくことは教師ばかりでなく、世界中の大人の新たな役割だと考えます。

- ・一生懸命に勉強すること
- ・校内や他校の友達と競い合って運動すること
- ・友達とのけんかから折り合いをつけること
- ・はみがきをすること
- ・自分で決めたメディア時間を守ること
- ・道徳の時間に本当の優しさとは何かを考えること
- ・イワナの放流や鉾ヶ岳歩行会で宇奈月の山に入ること
- ・まち探検や遠足、市議会見学で世の中を見聞すること…

全ては長い人生の一瞬の点に過ぎないかもしれませんが、しかし、子供たちは大人が用意してくれたり、自分たちで考えたりして実践した経験は、やがて未来の自分のために役に立つと信じています。

変化の大きな一年ではありましたが、学校ではできる限り子供たちの期待に応えられるよう努力してまいりました。今年度の本校教育活動に対するご理解、ご協力本当にありがとうございました。今後とも、保護者の皆様、地域の皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

今年度の本校アクションプランの振り返り



富山県では、学校の取組に対して具体的な数値目標を設定し、その到達具合を確認しながら教育活動を進めていくことが推進されており、この取組を「アクションプラン」と呼んでいます。

本校でも知、徳、体の3部門の目標を立てて、振り返りを行っています。例年、その数値目標が達成されたか、取組が効果的であったかを子供たちにアンケートをとり、その結果をもとに評価しているものが多くありました。

しかし、子供たちのアンケート調査をもとに教育活動の効果を確認するためには、アンケートそのものが適切かを判断したり、調査結果の差が本当に意味ある値かどうかを吟味したりする必要があります。

そこで、今年度は目標を教師側の取組回数や実施率とし、子供たちの変容を求める前に、まずは「教師が継続して取り組むこと」を3部門全てで設定し、取り組んで来ました。

性急に結果を求めるのではなく、様々な改善を求められている今、子供たちの様子から、どんな教師側の取組が効果的なのかを継続しながら確認していく必要があると考えています。

以下の3部門の結果については、2月25日(木)に行った学校評議員会で報告し、学校評議員の方々からのご意見を外部評価として記述してあります。



(1)アクションプランI (うんと考える子…知)

①重点課題：活用・探究型の授業を実施すること

②具体的な取組：問題解決的な学習（調べる・まとめる・伝える）や新聞を活用した学習を計画的に教師が実施する。⇒目標100%

③結果：問題解決的な学習や新聞を活用した学習の実施率

	実施率
1・2学期	89%（9学級のうち8学級で実施）
3学期	100%（9学級のうち9学級で実施）

- ・1、2学期は実施できなかった学級があったが、3学期は全学級で実施することができた。
- ・2学期に複数回、問題解決的な学習に取り組んだ学級が3学級あった。
- ・実施した教科は国語科、社会科、算数科、理科、生活科、家庭科、総合的な学習の時間、自立活動であり、多くの教科・領域等で実施することができた。

④最終評価：**B**

【問題解決的な学習について】

- 子供同士で学び合う場面が増えた。（調べ活動、発表、意見交流等）
- 仮説を立て、調べたり体験したりしたことで、筋道を立てて考えることができるようになってきた。
- 友達に説明するときの言葉が増え、分かりやすく発表できるようになってきた。
- △子供が主体的に探究できる課題の設定や評価が難しかった。
- △個に応じた支援が難しく、学習意欲を向上させられなかった。

【新聞を活用した学習について】

- 国語科、社会科や朝の会の教師の話の中で、新聞記事を継続的に（*↗*）

紹介したことで、世の中の出来事を身近に感じ、自分事として捉えるきっかけとなった。

○新聞を学習に取り入れたことで、文章を読んだり、分からないことを調べたり、自分の考えを書いたりするきっかけになった。

○新聞記事の活用をきっかけに、九州豪雨災害の募金、赤い羽根共同募金を、子供たちが主体となって行うことができた。

△低学年はまだ読める文字が少ないので、新聞を読んで考えることが難しかった。

⑤外部評価

・問題解決的な学習は難しい取組ではあるが、互いに協力し合い、アイデアを出し合う、とてもよい機会になると感じる。今後は、地域の人材を活用した問題解決的な学習にも取り組んでほしい。

・自分のこととして捉え、自分の生き方を見つめ直す課題の工夫も必要であり、子供たちの自己肯定感を高める手立てになっていると考える。



(2)アクションプラン2(なかよくする子、きれいなこころの子…徳)

①重点課題：自他を尊重した挨拶や言葉遣いの場を設定すること

②具体的な取組：温かい言葉がけ「あさがおさいた」(相手を認める場面)を広げる時間を毎日教師が設定する。⇒目標90%以上

・「あさがおさいたタイム」を活用して、互いに認め合い、折り合いを付けながら生活していく関係づくりを行う。

・ねらいを明確にして縦割り班活動を行い、学年に応じた振り返りを行うことで異学年の友達と触れ合うよさを味わう。

③結果：クラスでの「あさがおさいたタイム」の実施率

全学年で毎日100%実施することができた。

・実施時間は、どの学年も毎日帰りの会の時間に行っている。中には、授業時間内に友達のよい発表の仕方や活動を振り返る時間を設けている学級もあった。

・年度初めは、自分中心の「楽しかったこと」の発表が多かったが、徐々に「友達のよいところ」を言えるようになってきた。

・仲のよい友達や男女、学級に関係なく、相手のよさや素敵な行動を伝えられる場面を設定し、実践できる子供が増えた。

④最終評価：A

○今年度は、昨年度までの「挨拶」から変更し、「互いに認め合う時間を設定する」ことを重点に取り組んできた。友達の挨拶の仕方、授業中の発表の仕方、真面目に掃除に取り組む姿、物を貸してくれる優しい姿等、日常の学校生活の中で、友達のよいところを見付けて、言葉にして認め合うことができた。

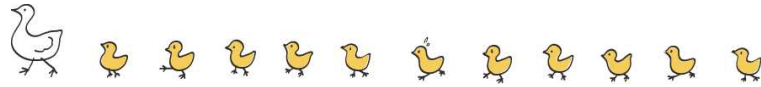
○児童会が呼びかけ、「あさがおさいたカード」を書く活動を取り入れた。「あさがおさいたカード」は、どの学年にとっても相手のよさに目を向ける動機付けとなる活動となった。今後も相手を認めることのよさ、認めてもらったときの心地よさ等を感じられる活動を工夫したい。

△相手を認める発表者が偏りがちであったが、発表する子供たちからは様々な相手の名前が発表されていた。毎週、必ず1回は発表することや、教師から率先して発表するなど、誰もが発表できる環境の手立てを考えて継続していきたい。

⑤外部評価

・登下校中に、子供たちに会うと気持ちのよい挨拶をしてくれる。(p4へ)

挨拶をされると、顔見知りになれたようで、うれしい気持ちがある。また、日頃から宇奈月小学校の子供たちは言葉遣いがきれいだと感じている。校内に入ると、子供たちから「こんにちは」と明るい挨拶をしてくれた。「おはよう」「こんにちは」と、時と場に応じて挨拶を使い分けていることが分かる。今後も、相手に応じた言葉遣いや挨拶を身に付けていってほしい。



(3)アクションプラン3(つよいからだの子…体)

①重点課題：ゲームやメディア利用の目標を設定すること

②具体的な取組：週に一度、ゲームやメディアとの付き合い方の目当てを教師がもたせる。⇒目標90%以上

- ・専門家の講演を行い、ゲームが心や体の健康に与える影響について理解させる。
- ・毎週水曜日に自分で取り組めそうな工夫や目当てをカードに書かせる。
- ・1か月を通して、メディアコントロールカードの目当ての実践がすべてできた子供たちの名前を給食時に放送で紹介する。

③結果：メディアコントロールの目当てをもたせた実施率

全学年年間平均で97%実施することができた。

○メディアコントロールを意識して実践できた子供の割合が上昇した。

④最終評価：A

○富山大学の山田正明先生によるインパクトのある講演で「メディアをコントロールすることで、脳を守りたい」という子供たちの意識が高まった。

○メディアコントロールカードの目当てを達成できた人を給食時の放送で発表したことが効果的だった。また、その際、感想や達成するためのアイデアを紹介し、目当て達成の意欲につなげた。

○メディアコントロールカードが効果的だった。

△目当てについて、目標時間を設定したり、メディアコントロールデー以外の日のコントロールの必要性について、発達段階に合わせて啓蒙したりしていく必要がある。

△メディアコントロールカードに書かれた保護者の方からの言葉や子供たちの言葉を保健だよりや学年だより等で今後も紹介していく。

⑤外部評価

- ・メディアに触れている時間以外の過ごし方が課題である。家庭では、本を読んだり、友達と外で遊んだりすることが、脳によい刺激を与え、学力向上につながるとされる。家庭での過ごし方について、学校と保護者が連携を図りながら実施方法を検討していくことがさらに必要である。
- ・親自身が子供のメディア使用に関して悩んでいるように思う。保護者の実態を把握し、保護者を巻き込んでの対策を考えていかなければならない。

今後の予定

- 4月 6日(火) 令和3年度 始業式 離任式 着任式
 7日(水) 給食開始
 8日(木) 第16回入学式
 9日(金) 安全パトロール隊対面式
 15日(木) 1年交通安全教室
 23日(金) 学習参観、PTA総会、学級懇談会(午前開催予定)
 30日(金) 花とみどり少年団結団式